

H29 年度 外国につながりをもつ子どものための居場所づくり支援事業 福知山市立南佳屋野児童館「スペイン語を母語とする人たちのための居場所づくり」

機関誌 NEWS 85 号に活動の概要とスタッフ 2 名の方の感想を掲載しています。

併せてご覧下さい。 <https://www.kpic.or.jp/content/files/centernews/news85jp.pdf>

<スタッフ 岸見由枝さん> 「外国にルーツを持つ子どもたちとの関わりの中で」

2017年、春から児童館のある学区に外国にルーツを持つ子どもたちが引っ越してきたということで、南佳屋野児童館でも関わりを持つことになりました。最初はボリビアからの子どもたちで、どのように接したらいいのか不安なままのスタートでした。

しかし、言葉もままならず、文化も違う初めての場所に来た子どもたちの方が想像がつかないほどの不安を抱えていることを思うと、身振り手振りでもいいから、何とかコミュニケーションを取ろうとする気持ちや子どもから言葉を教えてもらいながらも、寄り添うことがまず大切だと気づきました。

目の前にいる子どもが笑顔になれるように、少しでも児童館が心地よい場所になれば、そして学びの場所となれば嬉しいという思いだけで突っ走ってきたような気がします。児童館では、外国にルーツをもつ子どもと日本の子どもの何気ない交流が異文化交流となっており、各々の学びにつながっていているように感じます。子どもの年齢によっては、難しいこともありますが、常に誰か自分のことを気にかけてくれる人がいることを伝え続けたいと思います。

<スタッフ 田村圭子さん> 「外国にルーツがある子ども達とかかわって」

フィリピンから来たかわいい幼児と触れ合う中で、言葉の壁はあるものの、小さい子どもの特権で、周りのみんなが積極的に声をかけています。子どもは言葉をどんどん覚え、日本での生活にも慣れていくのを見ているとうれしく思います。

反面、少し年齢が高くなると恥ずかしさから、なかなか話をしたくない状態になりますが、そういう子どもに何とか日本の生活に馴染んでもらおうと試行錯誤の毎日です。課題もありますが本人に寄り添い、焦らず進んでいけたらと思います。

児童館には他にも、ブラジルやボリビアから来た子どもたちもいますが、積極的に話しかけその国の言葉で話し合うことでコミュニケーションが取れ、他の日本の子ども達も日本にいながらにして国際交流ができていると思います。

子ども達が児童館を嫌がらず学校帰りに寄ってくれることは、今一番の楽しみでもあります。児童館の行事に積極的に参加してもらい、他の子どもたちとも顔見知りになって声掛けがスムーズにできるようになればうれしいです。

